農業水利施設の機能保全の手引き「開水路」

参考資料編

参考資料編

目 次

1.	機能診断調査に係る記録様式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2.	機能診断調査結果に基づく施設状態評価表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20

1. 機能診断調査に係る記録様式

- 開水路の日常点検票
- ・開水路の事前調査票(問診票)
- ・開水路における水利用機能・水理機能の問診票
- 開水路の現地踏査票
- ・鉄筋コンクリート開水路の現地調査票 (1/3・2/3・3/3)
- 無筋コンクリート開水路の現地調査票(1/3・2/3・3/3)
- ・その他開水路(矢板型水路)の現地調査票(1/2・2/2)
- ・その他開水路 (コンクリートブロック積・石積水路) の現地調査票 (1/2・2/2)
- ・その他開水路(ライニング水路)の現地調査票(1/2・2/2)
- ・その他開水路(無ライニング水路)の現地調査票(1/2・2/2)

通信時 1分回 1分		施設名								[住所]									
現代機関 現代 現代機関 現代 現代 現代 現代 現代 現代 現代 現		点検日時	[今回]							[前回]									
東京		点検者								施	設情報	重要度:		健全度	:	_				S-
議水性 「「「「「「」」 「」	_	構造・規模												!	固	нл	固川	固川	固川	î
本代 一次のの表生を対象できない(文字にない)	=	工 插	占垛项目			占給「	力灾			田 代	かの右無				位	置チ	の他(※1)			
水杉田・水田 水色の海和上泉・湯水 一百 一番 水色の海和上泉・湯水 一百 一番 水色の海和上泉・湯水 一百 一番 水色の海和上泉・湯水 八百 一番 一番 水色の海和 一百 一番 小田 小田 小田 小田 小田 小田 小田 小		-11	本技術 口	所定の通オ	k量が確			ない)									07 IB (M 1 /			
水和用・水理			通水性																	
水色の複称 水色の変素低下		水利用·水理		水位の異常	計上昇、	溢水														
水色が安定しない			水位の維持																	
株式 大路本体 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本				水位が安定	己ない					-										
水溶水体	İ			水路本体σ	D崩壊					□有	無									
次表本体				鉄筋の露出				-												
かられき 日本では正可なといわ終れ、変色、単純 有 面 面 面 面 面 面 面 面 面			水路木休	側壁の傾斜	1、変形	、沈下、蛇行	Ī			□有	無									
目域で補認可能なびが割れ、変色、原料				コンクリート	の欠損	、剥落				-										
その他の異常				目視で確認	可能な	ひび割れ、変	変色、摩	耗		-										
おお木体 日地部 日地部 日地部 日地部 日地部 日地からの選択又は選水跡 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日										-										
予算				目地の欠損、開き、ずれ、段差					_											
その他の異常		水路本体	目地部	目地からの	漏水又	は漏水跡														
#				その他の異	具常															
機能のからか				地滑り、地	盤の崩り	壊														
#	5			地盤のゆる	み					□有	無									
施設周辺の改変状況等	į		周辺地盤	側壁外壁に	土砂流	亡の発生				□有	無									
清掃状態の不良(ごみ, 強木、上砂の堆積等)	ģ			施設周辺σ	D改変状					-										
				その他の異	具常					□有	無									
「小部		-		清掃状態σ)不良(ごみ、流木、	土砂の	堆積等)												
が一部 片吊りの発生 一有 無 編水 一有 無 その他の異常 一有 無 冷壁の異常(劣化・発動・存耗・損傷・変形・おかけかの緩み等) 一有 無 異常な振動・音 一有 無 その他の異常 一有 無 異臭、にごり 一有 無 開立住民からの苦情 一方 無 健全度 機度(N) 「 「 「 」 経底(E) 「 「 」 「 」 (施設監視計画で記載されている定点で実施)				外観の異常	常(塗装:	損傷、劣化、	発錆、	損傷、変刑)	□有	無									
付帯構造物				異常な振動・音					□ 有	無										
その他の異常			ケート部	片吊りの発生					□有	無										
その他の異常				漏水					□有	無										
除應機		付帝構造物							□有	無										
(スクリーン)				清掃状態の不良(ごみ、流木、土砂の堆積等)			□有	無												
その他の異常			除塵機	外観の異常(劣化・発鯖・摩耗・損傷・変形・ボルトナットの緩み等)					□有	無										
その他 環境等 定点番号 使全度 位置情報 (施設監視計画で記載されている定点で実施)			(スクリーン)	異常な振動	か音					□有	無									
その他 環境等 周辺住民からの苦情 □有 □無 定点番号 健全度 位置情報 * ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' '				その他の異	常					□有	無									
周辺住民からの苦情		7.014	T == 1.44 Adv	異臭、にご	IJ					□有	無									
位置情報 緯度(N)		その他	環境等	周辺住民か	いらの苦	情				□有	無									
仮度(E)		定点番号								f	建全度									
[施設監視計画で記載されている定点で実施] 写真 状況 コメント コメント		位置情報			0	-	<u>'</u>		"											
写真 状況 コメント コメント	ŀ			で記載され	ている	テムで実施1	ľ	ļ	[
写真 状況 コメント コメント			1.1世以 1.1元日日	2 C BL #X C 1 U		と無く天池』														
写 真 状 況 コメント コメント																				
写真 状況 コメント コメント																				
状 況 コメント コメント		- 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10																		
コメント																				
コメント		状 況																		
				I										1						
			コメント	ļ								コメ	ント							
所見		所 見																		

| | ※1:位置情報(住所又はOC橋近傍の左岸)と合せ、前回点検時からの水位・ひび割れ・外観等の変化などを記載。枠内に収まらない場合は別紙にて整理。 | ※2:異常が確認された場所の対応(要観察、関係部局へ連絡し対策を検討など)などを記載。異常が確認された場合は、本点検票と合せ、異常箇所の状況を | 写真にて記録・整理し保存しておくこと。 | ※3:機能保全シナリオ上の対策時期を超過しているが、対策工事に着手していない場合は、「施設監視」の項目を重点的に実施。

開水路の事前調査票(問診票)

整理	里番号			調査年月日	平成	年	月	目
地	区 名			記入者				
施	設 名							
	項目		異常の有無、内容	\$ [*] ¹			異常	箇所※2
構造上の変状	構造	物	1. 異常有り ①崩壊規模が大きく、水路機能の低下が衰 ②鉄筋の露出箇所がある(鉄筋コンクリー ③明らかな構造物の傾斜、変形、沈下、虹 ④コンクリートの欠損、剥落が見られる ⑤目視で簡単に見分けられるひび割れや変 ⑥そのほかの異常が見られる(摩耗、粗情 2. 異常無し 【特記】	ート開水路、柵き で行が見られる 変色、摩耗などが	よ、矢板	귳等)		
	目地	部.	1. 異常有り ①目地部の欠損、開き、ずれ、段差が著し ②目地部のずれ、段差が見られるが漏水の ③そのほかの異常が見られる(2. 異常無し 【特記】					
	周辺地	盤	1. 異常有り ①地すべり、地盤の崩壊が発生している ②地盤のゆるみが見られる ③そのほかの異常が見られる(2. 異常無し 【特記】)				
水理・水利	通水性		1. 異常有り ①所定の通水量が確保できない ②通水量が安定しない(管理が難しい) ③漏水が発生している 2. 異常無し 【特記】					
利用上の異常	水位維	の持	1. 異常有り ①水位の異常上昇、溢水が見られる ②水位の異常低下が見られる ③水位が安定しない 2. 異常無し 【特記】					
環境 (騒音・振動等、施 設の変状・劣化と因 果関係のあると思 われるもの)			1. 異常有り ①騒音・振動が認められる、苦情、改善要②そのほかの環境に関わる苦情、改善要訓					

※1:異常の有無、内容は、該当する番号に○印をつける。

※2: 異常箇所は、測点、又は大まかな位置及び水路形式を記入する。 (例 ○○橋近傍の左岸側壁) 水路形式は、以下の区分から選択して記入する。

- (a) 鉄筋コンクリート開水路 (b) 無筋コンクリート開水路 (c) 柵きょ (d) 矢板型水路
- (e)ブロック積水路 (f)石積水路 (g)ライニング水路 (h)無ライニング水路
- (i) その他 ()

開水路における水利用機能・水理機能の問診票

	整理番号		調査年月日	平成	年 月	日
	地区名		記入者			
100.61-	施設名	TINE LIE WI	形態	開水路	FF 1/4	h — → ✓ ∨ 0
機能	性能	異常の有無、内容※1			異常	個所※2
	送配水性	1. 異常あり ・末端への用水到達時間が遅い ・送配水の問題から計画上の取水量では末端で必要水量 2. 異常なし 【特記事項】	を確保できない			
水利用機能	送配水弾力性	1. 異常あり ・用水需要の変動に対して応答ができていない ・無効放流が多く発生している 2. 異常なし 【特記事項】				
	保守管理・保全性	1. 異常あり ・日常的な保守管理に要する費用や労力が増加している ・保守管理に必要な施設(管理用道路、除塵・排砂施設等 2. 異常なし 【特記事項】	摩)が不足している	3		
	通水性	1. 異常あり ・所定の流量流下時に不安定な流況が生じる、溢水する ・所定の流量流下時に余裕高が不足する(天端付近まで元 ・水路の沈下や変形等により、安全に水が流れない区間 ・漏水が生じている(又は漏水が疑われる個所がある) ・必要な水位が確保できていない 2. 異常なし 【特記事項】	k位が上昇する)			
	水位・流量・圧力 制御性 分水制御性	1. 異常あり ・水位、流量、圧力等各種制御設備に不具合や操作上の ・分水制御設備に不具合や操作上の問題等がある 2. 異常なし	問題等がある			
	万 小 刑 岬 注	【特記事項】				
水理機能	水位・流量 計測性	1. 異常あり ・水位、流量等の計測設備に不具合がある(故障又は破打 ・水位、流量等の計測設備が不足している 2. 異常なし	員している)			
		【特記事項】				
	分水均等性	1. 異常あり ・管理基準に準拠した分水量が適正に配分できない (分水ゲート等の形式やゲート開度に不具合がある) ・分水の問題から、末端で必要な水量を確保できない 2. 異常なし 【特記事項】				
	放余水性	1. 異常あり ・放流施設の不具合により豪雨、洪水時等の余水放流が ・余水放流施設が不足している 2. 異常なし	適切にできない			_
		【特記事項】				

※1:異常の有無、内容は、該当する番号に○印をつける。

※2: 異常箇所は、測点、又は大まかな位置及び水路形式を記入する。 (例 〇〇橋近傍の左岸側壁) 水路形式は、以下の区分から選択して記入する。

- (a) 鉄筋コンクリート開水路 (b) 無筋コンクリート開水路 (c) 柵きょ (d) 矢板型水路
- (e)ブロック積水路 (f)石積水路 (g)ライニング水路 (h)無ライニング水路
- (i) その他 ()

開水路の現地踏査票

整理番号			調査年月日	平成	年	月	目
地区名			記入者				
施設名							
写真整理No.							
	変状項目	変次			変状領	箇所※	
	欠損・崩壊・鉄筋の露出						
水 路 の 安 定 性	傾き・変形・歪み 側壁、底版の変形						
	不同沈下						
	ひび割れ・進行性、曲げひび割 れ等の異常なひび割れ						
	コンクリート表面の剥落、欠 損、変色などそのほかの変状						
材料劣化	コンクリートブロック等の欠 損、はがれ						
	摩耗・骨材の露出						
	漏水・ひび割れ等からの漏水痕 跡箇所						
	鋼矢板の腐食・孔食						
目地の	漏水・漏水痕跡 (異常な湿気・吸出し)						
劣 化	欠損、段差、破断						
周辺地盤	水路に接する地盤地すべり、崩落						
	水路に接する地盤陥没						
雑草・堆砂	通水阻害を起こすような雑草 の繁茂						
林中 在的	通水阻害を起こすような堆砂						
	現地調査箇所 (現地調査を行うのに適当な 箇所)						
評価	詳細調査箇所 (補修対策の必要有無を判断 するための詳細調査が必要な 箇所)						
	補修対策の必要箇所 (早急に補強・補修工事を必要 とする箇所)						
特記事項							
14 HU FF 75		0.712 2 7 1	7 66 m x 181 x 3 = 3	<u></u>	/// m /m	⊬ am →	-10

※変状箇所は、	路線測点番号、	施設番号、	調査平面図に付	した番号等のいずれかを記入し、	今後の経年調査で場
	ストらにオスト	レ あわせ	て 水敗形式を	以下の区分から選択して記入す	-ステレ

- 所が照合できるようにすること。あわせて、水路形式を、以下の区分から選択して記入すること。 (a) 鉄筋コンクリート開水路 (b) 無筋コンクリート開水路 (c) 柵きょ (d) 矢板型水路
- (e) ブロック積水路 (f) 石積水路 (g) ライニング水路 (h) 無ライニング水路
- (i)その他()

鉄筋コンクリート開水路の現地調査票(1/3)

の評価 (劣化要因	劣化 中性			記 入 者 調査地点(測点表示等) 例;NoO+O~No.O+O						
定点調査番 劣化要因 の評価 (劣化要因	劣化 中性 塩害 ASR									
劣化要因 の評価 (劣化要因	劣化 中性 塩害 ASR			טיט.טאוייטיטיטאו, ניפן						
の評価 (劣化要因	中性 塩害 ASR		三寸/冊	特記事項(可能性のある劣	/ル亜田笙)					
(劣化要因	塩害 ASR		評価	付記事項(円形圧ののの)	11.女囚守/					
	ASR									
l F										
		的腐食								
	疲労									
		- 風化								
7	構造	外力								
調査部位	規格		調査施設概	要図						
データ	スケ	ッチ	□ あり	□なし	No.					
## TON	写真		□あり	□なし	No.					
		変 状 項 目			犬の状態・程度					
	ひび割れ最大幅 ※()の値は厳しい腐食環境の場合に適		□ 0.2mm未 (0.2mm未満	_		□1.0mm以. mm以上)	Ŀ			
	用す	ବ	□ひび割れた	なし	実測値		(mm)			
<u> </u>	最大	幅ひび割れの延長					(m)			
	ひび	幅2.0mm以上					(m)			
	割	幅1.0mm以上2.0mm未満					(m)			
	れ 延	幅0.20mm以上1.0mm未満					(m)			
	長	幅0.20mm未満					(m)			
ひび割れ		ひび割れ形状	□ 1.目地間中央や部材解放部の垂直ひび割れ □ 2.特徴的な形状を示さないひび割れ □ 3.格子状・亀甲状などのひび割れ							
		※複数指定可	□ 4.側壁を横切るような水平又は斜めのひび割れ							
			 -							
			□ 5.鉄筋に沿ったひび割れ							
<u>:</u>	進行	性(前回との変化)	□ あり							
,	ひび	割れ規模		密度:ひび割れ幅0.2mm以上 <i>0</i>)ものが50cm/m2以上					
			□全体的(表面の50%以上)							
i	ひび	割れ付随物(析出物、錆汁、浮き)	<u></u> □ あり □ なし							
	ひび	割れからの漏水	□滲出し、湯	扇水跡、滴水 □流水、噴	水 □なし					
	ひび	割れ段差								
	※いずれか該当するチェックボックスに印を		つけ、右欄に	計測値を記入する。						
	浮き		□ 部分的(表 □ なし	長面の50%未満) □ 全体的	(表面の50%以上)		(m²)面積			
材料劣化	剥離	·剥落·スケーリング	部分的(矛	長面の50%未満) □なし		(m²)面積				
1/1 / 1/7 95 16			□ 全体的(矛	長面の50%以上)		(cm)深さ				
,	析出	物(エフロレッセンス・ゲルなど)	□ 部分的(表	長面の50%未満) 🔲 全体的	(表面の50%以上)		(箇所)			

鉄筋コンクリート開水路の現地調査票 (2/3)

	変 状 項 目		変状(の状態・程度		
	錆汁	□あり	□ なし		(箇所)	
材料劣化	摩耗・すりへり	□ 1.細骨材 □ 3.粗骨材		□ 2.粗骨材露出		
13412312		□全体的(表面の50%以上)	(m²)面積		
	t 鉄筋露出	□ 部分的(表面の50%未満)	口なし		
			表面の50%以上) T		(箇所)	
圧縮強度	反発硬度法(左·右側壁)	測定No. 測定No.			(N/mm²)	
	平均値(設計基準強度比)	□100%以	上	100%未満	5%未満	
	ドリル法	測定No.			(mm)	
	鉄筋被り(測定値又は設計図書)	こよる)			(mm)	
中性化深さ	中性化残り=鉄筋被りー中性化	深さ			(mm)	
	平均値	中性化列	桟り10mm以上	□ 中性化残り10₁	mm未満	
	変形・歪みの有無	□局所的(i □なし	施設の一部のみで発生)	□全体的(変状が	が構造物全体にある)	
	変形・歪み箇所の略図	•				
変形・歪み						
欠損·損傷	 欠損・損傷の有無		施設の一部のみで発生)	口なし		
		□ 全体的(変状が構造物全体にある)		(箇所)	
不同沈下	構造物の沈下・蛇行		施設の一部のみで発生) 変状が構造物全体にある)	□なし		
	背面土の空洞化	_	施設の一部のみで発生) 変状が構造物全体にある)	□なし		
地盤変形	周辺地盤の陥没 ひび割れ		施設の一部のみで発生) 変状が構造物全体にある)	□なし		
	抜上がり(目視)	□ 20cm未	尚 □ 20cm以上~50cr	m未満	□なし	
	目地の開き		施設の一部のみで発生)	□なし		
			変状が構造物全体にある)		(mm)	
	目地の段差		施設の一部のみで発生) 変状が構造物全体にある)	<u>□</u> なし	()	
目地の変状	 止水板の破損	口あり	□なし		(mm) (箇所)	
口地以及1人	エ 小 似 の 収 損		 漏水跡、滴水	<u> </u> □なし	(回기)	
	目地からの漏水の状況	□流水、噴			(箇所)	
		_		<u> </u> □ なし	(回71)	
	周縁コンクリートの欠損等		変状が構造物全体にある)		(箇所)	
	ļ		久 八//	ļ	(回刀)	

鉄筋コンクリート開水路の現地調査票(3/3)

	点検担当者の主観的な評価
対策の必要性	1.対策必要有(以下から選択)
	□ ①早急に詳細調査を実施し、補修対策を実施する必要有り。 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
	□ ②詳細調査を実施し、対策の必要有無を検討するのが望ましい。
	□③緊急の対策、調査は必要ない。
	□ 2. 対策必要無し 【特記事項】
	KIND T-XA
想定される 主な劣化要因	【劣化要因】
	□ 1.初期欠陥 □ 2.中性化 □ 3.アルカリ骨材反応□ 4.凍害
※複数指定可	□ 5.化学的腐食 □ 6.疲労 □ 7.摩耗·風化 □ 8.過荷重(地震含む) □ 9.近接施工
	□ 10.支持力不足 □ 11.外力(緩み土圧、塑性土圧、偏圧)□ 12.その他
	【特記事項】
担点されて	
想定される 劣化過程評価	【劣化過程】
	□ I;潜伏期 □ I;進展期 □ II;加速期 □ IV;劣化期 □ 【特記事項】

無筋コンクリート開水路の現地調査票(1/3)

整理番号				調査年月日					
地区名				記入者					
施設名				調査地点(測点表	表示等)				
定点調査番	号			例; NoO+O~N					
	劣化	要因	評価	特記事項(可能	能性のある劣	(化要因等)			
の評価(劣									
	凍害								
定表によ	化学	的腐食							
る)	疲労								
	摩耗	- 風化							
	構造	外力							
調査部位	規格		調査施設概	要図					
データ	スケ	ッチ	□ あり	□なし		No.			
整理No.	写真		□ あり	□なし		No.			
		変 状 項 目			変状(の状態・程度			
		~ , , , ,	□ 0.2mm未	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	2mm以上~5.		□ 5.0mm以上		
	ひび	割れ最大幅		<u></u>	211111841 - 0.	ı			
			□ひび割れた	はし		実測値		(mm)	
	最大	幅ひび割れの延長 I						(m)	
	ひび	幅5.0mm以上						(m)	
	割れ	幅1.0mm以上5.0mm未満						(m)	
	延長	幅0.20mm以上1.0mm未満						(m)	
	100	幅0.20mm未満						(m)	
ひび割れ			□ 1.目地間中央や部材解放部の垂直ひび割れ						
		ひび割れ形状	□ 2.特徴的な形状を示さないひび割れ						
		0.0 13.10.12 84							
		※複数指定可	□3.格子状・亀甲状などのひび割れ						
			4.側壁を作	黄切るような水平	又は斜めのひし) 計れ			
	進行	性(前回との変化)	□ あり						
			□ひび割れ	密度:ひび割れ幅	■0.2mm以上0	のものが50cm/m2以上			
	ひびき	割れ規模 おおおり おおり おおり おおり おおり おおり おおり おおり おおり お		表面の50%以上	١				
				夜面の50%以上。					
	ひびき	割れ付随物(析出物、錆汁、浮き)	■ あり		□なし				
	ひびき	割れからの漏水	□滲出し、湯	屚水跡、滴水	□流水、吲	賃水 □なし			
		割れ段差	□ あり		□なし				
	×ιν	ずれか該当するチェックボックスに印を	つけ、右欄に	計測値を記入す	ける。				
	浮き		□ 部分的(ā □ なし	長面の50%未満)	□ 全体的((表面の50%以上)		(m²)面積	
	剥離	・剥落・スケーリング	一部分的(表面の50%未満) 口なし			(m²)面積	
材料劣化			_	表面の50%以上	_			(cm)深さ	
	-		_					(最深部)	
	析出	物(エフロレッセンス・ゲルなど)	□ 部分的(ā □ なし	長面の50%未満) 	全体的	(表面の50%以上)		(箇所)	
	_	·		·		·			

無筋コンクリート開水路の現地調査票(2/3)

	変 状 項 目	変状の状態・程度						
		□ 1.細骨材	露出	□ 2.粗骨材露出				
材料劣化	摩耗・すりへり	□ 3.粗骨材	剥離	□なし				
		□ 全体的(表面の50%以上)		(m²)面積			
	5.杂项度注(士. 士/则度)	測定No.			(2)			
圧縮強度	反発硬度法(左·右側壁) 	測定No.			(N/mm²)			
	平均値(設計基準強度比)	□ 100%以.	上 75%以上1	00%未満	%未満			
	転倒・滑動の有無	□ 局所的()	施設の一部のみで発生)	□全体的(変状/	が構造物全体にある)			
		_ □なし		_				
	転倒・滑動の略図	•						
転倒・滑動								
〒ム [2] ⁻ 7月 <u>3</u> /J								
浮上	底版の浮き上がり	□局所的()	施設の一部のみで発生)	□なし				
子工	(地下水・浮力)	□ 全体的(変状が構造物全体にある)					
	石铝 铝炼 の去無	□局所的()	施設の一部のみで発生)	□なし				
欠損∙損傷 	欠損・損傷の有無 	□ 全体的(変状が構造物全体にある)		(箇所)			
	1#3#d - 31 1±7-	□局所的()	施設の一部のみで発生)					
不同沈下 	構造物の沈下・蛇行 	全体的(変状が構造物全体にある)					
		局所的()	施設の一部のみで発生)	□なし				
	背面土の空洞化 		変状が構造物全体にある)	_				
地盤変形		□局所的()		□なし				
	ひび割れ		変状が構造物全体にある)	_				
	抜上がり(目視)	☐ 20cm未清	描	m未満 □ 50cm以上				
	BB !	□局所的()	施設の一部のみで発生)					
	目地の開き	□ 全体的(変状が構造物全体にある)		(mm)			
	= M	□局所的()	施設の一部のみで発生)	□なし	+			
	目地の段差 	□ 全体的(変状が構造物全体にある)		(mm)			
目地の変状	止水板の破損	□ あり	□なし		(箇所)			
		□滲出し、湯	扇水跡、滴水					
	目地からの漏水の状況	□ 流水、噴	水		(箇所)			
		□局所的()	施設の一部のみで発生)	 □なし	1			
	周縁コンクリートの欠損等	□ 全体的(変状が構造物全体にある)		(箇所)			
l				1	I .			

無筋コンクリート開水路の現地調査票(3/3)

		点検	担当者の主観的な	な評価						
対策の必要性	1.対策必要有(以下	から選択)								
	□ ①早急に詳細調査	査を実施し、補修対策	きを実施する必要有り。							
	□ ②詳細調査を実施	施し、対策の必要有無	乗を検討するのが望ましい 。							
	□③緊急の対策、調	画査は必要ない。								
	□ 2. 対策必要無し									
	【特記事項】									
想定される 主な劣化要因	【劣化要因】									
	□ 1.初期欠陥	□ 2.アルカリ骨材が		□3.凍害						
※複数指定可	□ 4.化学的腐食	□ 5.疲労	□ 6.摩耗・風化	□ 7.過荷重(地震含む)	□ 8.近接施工					
	□ 9.支持力不足	□ 10.外力(緩み:	土圧、塑性土圧、偏圧)	□ 11.その他						
	【特記事項】									
想定される	【劣化過程】									
劣化過程評価	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	□Ⅱ;進展期	□ Ⅲ;加速期	□Ⅳ;劣化期						
	【特記事項】	,								

その他開水路(矢板型水路)の現地調査票(1/2)

	<u> </u>								
		証価		 ≥化要因等)					
	化学的腐食	птіш	17記事項(可能はののの)	11.安四寸/					
" " - 1 "									
	摩耗・風化								
る)	外部要因								
調査部位	規格	調査施設概	要図						
		表面的な腐食							
データ 敕理No		□ あり	□なし	No.					
奎垤NU.	写真	□ あり	□なし	No.					
	変 状 項 目		変状	の状態・程度					
	# 表によ 摩耗・風化 外部要因 別番部位 規格 別番部位 規格 別番 別番 別番 別番 別番 別番 別番 別	□表面的な	腐食 □ さび層の剥離	ibり 開孔あ	ท				
構造物目体の変状 コン 矢: 構造物自体の変状 (側壁)	鐁矢板の腐食	□なし	_		(mm)				
構造が目体の変状 コンクリート部材の劣化 □部分的(施設の一部のみで発生) □全面的(変状が構造物全体にある) □なし 矢板・柵きょの笠コンクリート □5cm未満又はやや沈下 □5cm以上又は明らかに沈下 □明らかな沈下が全体的									
構造物自 体の変状 (側壁) 切	矢板・柵きょの笠コンクリート	□5cm未満	又はやや沈下 🗌 5cm以上	又は明らかに沈下	□明らかな沈下が全体的				
	(天端)の沈下・ずれ	□なし			(mm)				
	亀裂・折損・損傷・欠損・ゆるみ	□部分的(加)	施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし				
	切梁・腹おこしの変状	□塗装の劣	化あり、ひび割れあり 🔲 断	f面欠損あり、たわみあ	り 🗌 座屈あり 🔲 なし				
	漏水・湧水・土砂の吸出し	□部分的(加	施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし				
(底面)	侵食・洗掘・矢板の露出	□部分的(加	施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) □なし				
	背面土の空洞化	□局所的(抗	施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし				
抽般亦形	周辺地盤の陥没・ひび割れ	□局所的(力	施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし				
地盖发形	生け トがリ(日知)	☐ 20cm未満	ii	L上50cm未満	50cm以上				
(側壁) 切梁・腹おこしの3 漏水・湧水・土砂((底面) 侵食・洗掘・矢板(背面土の空洞化 周辺地盤の陥没・ 抜け上がり(目視	扱り上かり(日祝)	□なし			(mm)				
		□ 全体的(3	変状が構造物全体にある)						
	目地の開き	□局所的(カ	施設の一部のみで発生)		(mm)				
		□ 全体的(3							
	段差	□局所的(カ	施設の一部のみで発生)		(mm)				
目地の	VI	□漏水、滲	出し、滴水	□なし					
変 状	漏水の状況	□流水、噴	水		(箇所)				
	B4-> 511 1 2 5 12 45	□全体的(3	変状が構造物全体にある)	□なし					
	周稼コンクリートの欠損等	□局所的(力	施設の一部のみで発生)		(箇所)				
		□あり		□なし					

その他開水路(矢板型水路)の現地調査票(2/2)

		点検	担当者の主観的な	な評価	
対策の必要性	1.対策必要有(以下	から選択)			
	□①早急に詳細調査	査を実施し、補修対策	を実施する必要有り。		
	□②詳細調査を実施	施し、対策の必要有無	を検討するのが望ましい。	٥	
	□③緊急の対策、調	間査は必要ない。			
	□ 2. 対策必要無し				
	【特記事項】				
想定される 主な劣化要因	【劣化要因】				
	□ 1.初期欠陥	□ 2.アルカリ骨材反	応	□ 3.凍害	
※複数指定可	□ 4.化学的腐食	□ 5.疲労	□6.摩耗・風化	□ 7.過荷重(地震含む)	□8.近接施工
	□ 9.支持力不足	□ 10.外力(緩み土	圧、塑性土圧、偏圧)	□ 11.その他	
	【特記事項】				
想定される	【劣化過程】				
劣化過程評価	□ I;潜伏期	□Ⅱ;進展期	□ Ⅲ;加速期	□ Ⅳ;劣化期	
	【特記事項】	_	_	_	

その他開水路(コンクリートプロック積・石積水路)の現地調査票(1/2)

整理番号			調査年月日							
地区名			記 入 者							
施設名			調査地点(測点表示等)							
定点調査都		,	例; NoO+O~No.O+O							
	劣化要因	評価	特記事項(可能性のある多	5化要因等)						
の推定 (劣化要因	化学的腐食		4							
推定表に	<u>疲労</u> 摩耗・風化		-							
よる)	外部要因		†							
調査部位	規格	調査施設概	要図							
データ	スケッチ	□あり	□なし	No.						
整理No.	写真	□あり	□なし	No.						
		変状の状態・程度								
	ブロックのずれ・緩み・欠損・亀裂	□部分的(施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし					
構造物自 体の変状	滑動・転倒(傾倒)・はらみ	□部分的(施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし					
(側壁)	漏水・湧水・背面土砂の吸出し	□部分的(施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし					
	不同沈下	□部分的(施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし					
(底面)	侵食·洗掘	□部分的(施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし					
	背面土の空洞化	□局所的(施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし					
地盤変形	周辺地盤の陥没・ひび割れ	□局所的(施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし					
	抜け上がり(目視)	□ 20cm未	描 □ 20cm以	以上50cm未満	□ 50cm以上					
		□なし			(mm)					
	口事の問え	□全体的(変状が構造物全体にある)	□なし						
	目地の開き	□局所的(施設の一部のみで発生)		(mm)					
	段差	□全体的(変状が構造物全体にある)	□なし						
	+X左	□局所的(施設の一部のみで発生)		(mm)					
目地の 変 状	止水板の破断	口あり	□なし		(箇所)					
	漏水の状況	□漏水、滲	出し、滴水	□なし						
	旅行 ノンベン プレング	□流水、噴	i水		(箇所)					
	周縁コンクリートの欠損等	全体的(変状が構造物全体にある)	□なし						
	四 核コンソソードの人倶寺	□局所的(施設の一部のみで発生)		(箇所)					

その他開水路(コンクリートプロック積・石積水路)の現地調査票(2/2)

		点検拍	旦当者の主観的な	な評価	
対策の必要性	1.対策必要有(以下	から選択)			
	□①早急に詳細調査	査を実施し、補修対策を	生実施する必要有り。		
	□ ②詳細調査を実施	もし、対策の必要有無な	を検討するのが望ましい。	•	
	□③緊急の対策、調	査は必要ない。			
	□ 2. 対策必要無し				
	【特記事項】				
+0					
想定される 主な劣化要因	【劣化要因】				
	□ 1.初期欠陥	□ 2.アルカリ骨材反	応	□3.凍害	
※複数指定可	□ 4.化学的腐食	□ 5.疲労	□ 6.摩耗・風化	□ 7.過荷重(地震含む)	□8.近接施工
	□ 9.支持力不足	□ 10.外力(緩み土)	王、塑性土圧、偏圧)	□ 11.その他	
	【特記事項】				
想定される	【劣化過程】				
劣化過程評価	□ I;潜伏期	□Ⅱ;進展期	□ Ⅲ;加速期	□ Ⅳ;劣化期	
	【特記事項】				
ĺ					

その他開水路(ライニング水路)の現地調査票(1/2)

整理番号			調査年月日				
地区名			記入者				
施設名			調査地点(測点表示等)				
定点調査番			例; NoO+O~No.O+O				
劣化要因		評価	特記事項(可能性のある)	3化要因等)			
	化学的腐食						
	疲労						
定表によ る)	摩耗・風化						
	外部要因	-m					
調査部位	規格	調査施設概	要凶				
データ	スケッチ		□なし	No.			
整理No.	写真	一あり	□なし	No.			
	変 状 項 目		変状	の状態・程度			
構造物自 体の変状	コンクリート部材の劣化	□部分的(施設の一部のみで発生) □全面的(変状が構造物全体にある) □なし					
	法面の沈下・変形	□見通しに。	よりやや変状あり 見	通しにより明らかに変状	きあり 変状なし		
体の変状	コンクリートライニングの割れ・剥がれ、パネルのずれ・緩み・欠損	□部分的(カ	施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし		
整理No. 写 構造物変数 自状 自は状 自状 自状 の	漏水・湧水	□漏水跡、	滲出し、滴水 🗆]流水、噴水	□なし		
(底面)	侵食・洗掘・ライニングの亀裂	□部分的(カ	施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) □なし		
(成田)	底版の浮き上がり	□局所的(カ	施設の一部のみで発生)]全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし		
地盤変形	周辺地盤の沈下・ひび割れ・陥没	□局所的(加	施設の一部のみで発生) []全面的(変状が構造	物全体にある) 口なし		
	目地の開き	□全体的(3	変状が構造物全体にある)	□なし			
	日地の用さ	□局所的(カ	施設の一部のみで発生)		(mm)		
目地の 変 状	温水の体質	□漏水跡、	滲出し、滴水	□なし	•		
2 W	漏水の状況	□流水、噴	水		(箇所)		
	合流工・分水工等附帯構造物取付部の変 状(段差・抜け上がりなど)	□あり		□なし			

その他開水路(ライニング水路)の現地調査票(2/2)

		点検	担当者の主観的		
対策の必要性	1.対策必要有(以下	から選択)			
	□ ①早急に詳細調査	査を実施し、補修対策	を実施する必要有り。		
	□ ②詳細調査を実施	もし、対策の必要有無	まを検討するのが望ましい.	۰	
	□ ③緊急の対策、調	査は必要ない。			
	┃ □ 2. 対策必要無し				
	【特記事項】				
おウントフ					
想定される 主な劣化要因	【劣化要因】				
	□ 1.初期欠陥	□ 2.アルカリ骨材を	支応	□ 3.凍害	
※複数指定可	□ 4.化学的腐食	□ 5.疲労	□6.摩耗・風化	□ 7.過荷重(地震含む)	□8.近接施工
	□ 9.支持力不足	□ 10.外力(緩み土	上圧、塑性土圧、偏圧)	□ 11.その他	
	【特記事項】				
想定される 劣化過程評価	【劣化過程】				
73 10 AZ (Z p) (m)	□ I;潜伏期	□Ⅱ;進展期	□ Ⅲ;加速期	□Ⅳ;劣化期	
	【特記事項】				

その他開水路(無ライニング水路)の現地調査票(1/2)

地区名 記入者 施設名 調査地点(測点表示等) 定点調査番号 例:NoO+O~No.O+O 劣化要因の 推定(劣化 要因推定表 による) 評価 特記事項(可能性のある劣化要因等)						
定点調査番号 例:NoO+O ~ No.O+O 劣化要因の 推定(劣化 要因推定表 日が再日 評価 特記事項(可能性のある劣化要因等)						
第化要因の 第任 特記事項(可能性のある劣化要因等) 推定(劣化 要因推定表						
推定(劣化 要因推定表 は 2000年日						
要因推定表						
調査部位						
データ スケッチ 口あり 口なし No.						
整理No						
与具						
変 状 項 目 変状の状態・程度	変状の状態・程度					
 構造物自体 法面・護岸の崩壊・崩落 □ 部分的(施設の一部のみで発生) □ 全面的(変状が構造物会	『全体にある) □なし					
の変状(法)主体にめる/					
面) 水路外への漏水・湧水(築堤区間) □漏水跡、滲出し、滴水 □流水・噴水	□なし					
(底面) 侵食・洗掘 一部分的(施設の一部のみで発生) 全面的(変状が構造物金	7全体にある) □なし					
地盤変形 周辺地盤のひび割れ・陥没 同ののみで発生 全面的(変状が構造物金	夏全体にある) □なし					
□漏水、滲出し、滴水□なし						
附帯構造物 取付境界部	(箇所)					
の変状 合流エ・分水工等附帯構造物取付部の変 は、(段差・抜け上がりなど) □ あり						

その他開水路(無ライニング水路)の現地調査票(2/2)

		点検	担当者の主観的な	な評価	
対策の必要性	1.対策必要有(以下	から選択)			
	□ ①早急に詳細調査	査を実施し、補修対策	を実施する必要有り。		
	□ ②詳細調査を実施	施し、対策の必要有無	を検討するのが望ましい。	0	
	□ ③緊急の対策、調	間査は必要ない。			
	┃ ┃ 2.対策必要無し				
	【特記事項】				
想定される 主な劣化要因	【劣化要因】				
	□ 1.初期欠陥	□ 2.アルカリ骨材反	応	□ 3.凍害	
※複数指定可	□ 4.化学的腐食	□ 5.疲労	□ 6.摩耗・風化	□ 7.過荷重(地震含む)	□8.近接施工
	□ 9.支持力不足	□ 10.外力(緩み土	上圧、塑性土圧、偏圧)	□ 11.その他	
	【特記事項】				
想定される	【劣化過程】				
劣化過程評価	□ Ⅰ;潜伏期	□Ⅱ;進展期	□ Ⅲ;加速期	□ Ⅳ;劣化期	
	【特記事項】				

2. 機能診断調査結果に基づく施設状態評価表

鉄筋コンクリート開水路の施設状態評価表

100	Ē	<u>区</u> 名				<u>評 価 年 月 日</u> 評 価 者					
点	調	査 番 号				調査地点					
i	設 0	D状態	S-5; 変状なし S-4; 変状兆候 S-3; 変状あり S-2; 顕:	著な変状あり S-1;重	大な変状あり	,		=0	ほの本も		
			評価項目		評価	区分		変状別	・	ル→施設料	
			健全度ランク	S-5	S-4	S-3	S-2	評価	別評価	評値	
		ひび割れ	タイプ: 初期ひび割れ 形状: 目地間中央や部材解放部の垂直ひび割れ 原因: 乾燥収縮・温度応力	最大ひび割れ幅 0.2mm未満	最大ひび割れ幅 [0.2mm以上~0.6mm未満] 0.2mm以上~1.0mm未満	最大ひび割れ幅 [0.6mm以上] 1.0mm以上	S-3に該当するものが 全体的				
			タイプ: 劣化要因不特定のひび割れ 形状: 特徴的な形状を示さないひび割れ 原因: 症状が複合的であり劣化要因を特定できないもの	最大ひび割れ幅 0.2mm未満	最大ひび割れ幅 [0.2mm以上~0.6mm未満] 0.2mm以上~1.0mm未満	最大ひび割れ幅 [0.6mm以上] 1.0mm以上	S-3に該当するものが 全体的				
			形 タイプ: ひび割れ先行型ひび割れ 形状: 格子状・亀甲状などのひび割れ 原因: ASRや凍害などの劣化要因	最大ひび割れ幅 0.2mm未満	最大ひび割れ幅 [0.2mm以上~0.6mm未満] 0.2mm以上~1.0mm未満	最大ひび割れ幅 [0.6mm以上] 1.0mm以上	S-3に該当するものが 全体的				
				タイプ: 外力によるひび割れ 形状: 側壁を横切るような水平又は斜めのひび割れ 原因: 構造物に作用する曲げ・せん断力	最大ひび割れ幅 0.2mm未満	最大ひび割れ幅 [0.2mm以上~0.6mm未満] 0.2mm以上~1.0mm未満	最大ひび割れ幅 [0.6mm以上] 1.0mm以上	S-3に該当するものが 全体的			
			タイプ: 鉄筋腐食先行型ひび割れ 形状: 鉄筋に沿ったひび割れ 原因: 中性化・塩害	無		有	S-3に該当するものが 全体的	_			
		~	進行性(ASRや凍害などの場合)		有りの場合1	ランクダウン					
			ひび割れ規模			① ひび割れ密度 (ひび割れ幅 0.2mm以上) 50cm/m2以上	S-3に該当するものが 全体的				
F F	構造物		ひび割れ付随物 (析出物、錆汁、浮き)	無		2 有 注2)	又は				
Vani v	自体の会		ひび割れからの漏水	無		③ 滲出し、漏水跡、滴水 注2)	流水、噴水		_		
3	変状		ひび割れ段差	無			有				
		ひび割れ以外の劣化	浮き	無	部分的	全体的					
			剥離·剥落	無	部分的	全体的					
			析出物(エフロレッセンス・ゲルなど) (ひび割れを含むものを除く)	部分的(S-4の場合 以外)	全体的又は鉄筋に沿った部分的						
			・	無	有			-			
			(OOBMILE A COVERT)	細骨材露出	粗骨材露出	粗骨材剥落					
			摩耗・すりへり		全体的の場合	経日 租					
			鉄筋露出の程度	無		部分的	全体的				
		圧縮強度	反発強度法(鉄筋) (圧縮強度換算)※設計強度 21N/mm2の場合	21N/mm2以上 (設計基準強度比	15N/mm2以上~ 21N/mm2未満 (設計基準強度比75%以上100%	15N/mm2未満 (設計基準確度比75%未満)		_			
		中性化	ドリル法	100%以上) 残り10mm以上	未満)	残り10mm未満		_			
		変形・歪み	(中性化残り) 変形・歪みの有無	無		局所的	全体的	_			
		欠損·損傷									
		不同沈下	欠損・損傷の有無	無		局所的	全体的		-		
F B		地盤変形	構造物の沈下、蛇行 	無		局所的	全体的	_			
	構造物周		背面土の空洞化 	無	局所的	全体的			_		
	辺の変		陥没・ひび割れ	#	局所的	全体的 20cm以上~		-			
	状	目地の変状	抜け上がり	無	20cm未満	50cm未満	50cm以上				
	構造	D-EV/X-W	目地の開き	無	局所的	全体的					
	物付		段差	無	局所的	全体的					
	随		止水板の破断	無		有		-	-		
1	物の変		漏水の状況	無	漏水跡、滲出し、滴水	流水、噴水					
	状		周縁コンクリートの欠損等	無	局所的	全体的					

無筋コンクリート開水路の施設状態評価表

肥		7				評価年月日 評価 者				
定点		登 名 查 番 号				調査地点				
	設 0		S-5;変状なし S-4;変状兆候 S-3;変状あり S-2;顕著	背な変状あり S-1;重	大な変状あり	(測点等)				
			評価項目			評価区分		変状別	評価の流れ 主要因	施設状
			健全度ランク	S-5	S-4	S-3	S-2	評価	別評価	態評価
		ひび割れ	タイプ: 初期ひび割れ 形状: 日地間中央や部材解放部の垂直ひび割れ 原因: 乾燥収縮・温度応力	最大ひび割れ幅 0.2mm未満	最大ひび割れ幅 0.2mm以上~ 5.0mm未満	最大ひび割れ幅 5.0mm以上	S-3に該当するものが 全体的			
			タイプ: 劣化要因不特定のひび割れ 形状: 特徴的な形状を示さないひび割れ 状 原因: 症状が複合的であり劣化要因を特定できないもの	最大ひび割れ幅 0.2mm未満	最大ひび割れ幅 0.2mm以上~ 5.0mm未満	最大ひび割れ幅 5.0mm以上	S-3に該当するものが 全体的			
			タイプ: ひび割れ先行型ひび割れ 服状: 格子状・亀甲状などのひび割れ 原因: ASRや凍害などの劣化要因	最大ひび割れ幅 0.2mm未満	最大ひび割れ幅 0.2mm以上~ 5.0mm未満	最大ひび割れ幅 5.0mm以上	S-3に該当するものが 全体的			
			タイプ: 外力によるひび割れ 形状: 側壁を横切るような水平又は斜めのひび割れ 原因: 構造物に作用する曲げ・せん断力	最大ひび割れ幅 0.2mm未満	最大ひび割れ幅 0.2mm以上~ 5.0mm未満	最大ひび割れ幅 5.0mm以上	S-3に該当するものが 全体的			
			進行性(ASRや凍害などの場合)		有りの均		Q	-		
内	構造		ひび割れ規模			① ひび割れ密度 (ひび割れ幅 0.2mm以上) 50cm/m ² 以上	S-3に該当するものが 全体的			
部	物自		ひび割れ付随物 (析出物、浮き)	無		② 有 注1)	又は		_	
要因	体の変状	7,57が割わい	ひび割れからの漏水	無		③ 滲出し、漏水跡、滴水 注1)	流水、噴水			
	1		ひび割れ段差	無			有	ĺ		
		ひび割れ以 外の劣化	浮き	無	部分的	全体的				
			剥離·剥落	無	部分的	全体的				
			析出物(エフロレッセンス、ゲルなど) (ひび割れを含むものを除く)	部分的(S-4の場合以外)	全体的			-		
				細骨材露出	粗骨材露出	粗骨材剥落		ĺ		
			摩耗・すりへり		全体的の	 場合、1ランクダウン		Ì		
		圧縮強度	反発強度法(圧縮強度換算) ※設計強度 18N/mm2の場合	18N/mm2以上 (設計基準強度比 100%以上)	13N/mm2以上~ 18N/mm2未満 (設計基準強度比75% 以上100%未満)	13N/mm2未満 (設計基準強度比75%未満)		-		
		転倒・滑動	構造物の転倒・滑動 (背面土圧)	無		局所的	全体的	-		
		浮上	底版の浮き上がり(地下水・浮力)	無		局所的	全体的	-		
外		欠損・損傷	欠損・損傷の有無	無		局所的	全体的	-		
部		不同沈下	構造物の沈下、蛇行 (地盤耐力)	無		局所的	全体的	-		
要	構造	地盤変形	背面土の空洞化	無	局所的	全体的			_	
因	物周辺の		周辺地盤の 陥没・ひび割れ	無	局所的	全体的		_		
	変状		抜け上がり	無	20cm未満	20cm以上~ 50cm未満	50cm以上			
	構	目地の変状	目地の開き	無	局所的	全体的				
その	造物付		段差	無	局所的	全体的				
他の	随物		止水板の破断	無		有		-	-	
要因	の変		漏水の状況	無	漏水跡、滲出し、滴水	流水、噴水				
	状		周縁コンクリートの欠損等	無	局所的	全体的				
(評価)	の流れ	における、主	要因別評価及び施設状態評価の判定の考え方)							

注1) ひび割れの規模に係る評価区分8~3は、①+②又は①+③を満たす場合に該当する。
注2) 「部分的」とは概ね全体の50%未満を示し、「全体的」とは全体の50%以上を示す。
注3) ひび割れ免行型ひび割れのうち、ASRや凍害などにより現在においても進行性があると判断できる場合は健全度ランクを「1ランクダウン」。
注4) 圧縮速度の調査は必要し応じて実施する。
注5) 「特態度の調査は必要し応じて実施する。
注5) 「特態度が助などにおける局所的」とは該股の一部で当該変状が生じている状態を指し、「全体的」とはそれが構造物全体に及んでいる状態を指す。
注6) 変状別評価から主要因別評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とする。
注7) S-1の評価は、この評価者とよう評価者が技術的製造から電別に刊定する。
注8 構成要素の飲食評価は、定泊置金的基果を認まえ、施設の金色のお評価を行う膨小実施するものとする。
注9 ま 規成要素の飲食評価は、定泊間室の結果を認まえ、施設の金色のお評価を行う膨小実施するものとする。
注9 主要因別評価から施設状態評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とすることを基本とする。なお、今後、性能低下を進行させる、より支配的な要因や、施設の機能に及ぼす影響がある場合には、これを考慮して評価する。
注1) 摩耗すりへりの1ランクダウンについては、水理機能、水利用機能に支障がなければ、1ランクダウンを行わないものとすることができる。

その他開水路(矢板型開水路(柵きょ含む))の施設状態評価表

地施		<u>区 名</u> 設 名				評価年月日評価者									
		査 番 号				<u>計 Ш 1</u> 調 査 地 点 (測 点 等)									
施	設 0	の状態	S-5;変状なし S-4;変状兆候 S-3;変状あ	り S-2;顕著な変状あ	り S-1;重大な変状あり			-	[[0] * 1						
			評価項目		評価区	分		Ē.	F価の流れ ┃	.→ 					
			健全度ランク	S-5	S-4	S-3	S-2	変状別 評価	主要因別 評価	施設状態 評価					
内部	構の造		鋼矢板の腐食	表面的な腐食	さび層の剥離あり	開孔あり									
要因	変物 状自体		コンクリート部材(柵渠、コンクリート矢板)の 劣化(ひび割れ・鉄筋露出・損傷など)	無	部分的	全体的		_	_						
		側壁 構造物	矢板・柵きょの天端(笠コンクリート)の 沈下・ずれなど	確認されない	5cm未満 又は 見通しにより やや沈下・変位あり	5cm以上 又は 明らかに沈下・変位あり	S-3が全体的								
	構造物		矢板・柵きょの 亀裂・折損・損傷・欠損・ゆるみ (外部要因によるもの)	無		部分的	全体的								
外	体 の			切梁・腹起こしの変状	確認されない	塗装の劣化あり、 ひび割れあり	断面欠損あり、 たわみあり	座屈あり	-						
部	変状		漏水・湧水 土砂の吸い出し	無	部分的	全体的		-							
要		水路底面	侵食・洗掘 矢板の露出	無	部分的	全体的		-	_						
因	構造物	地盤変形	背面土の空洞化	無	局所的	全体的									
	物周辺の	問辺の変数状	周辺地盤の 陥没・ひび割れ	無	局所的	全体的		_	_	_			-		
	変状		抜け上がり	無	20cm未満	20cm以上~ 50cm未満	50cm以上								
	構	附帯構造物 の取付境界 帯・目地の	目地の開き	無	局所的	全体的									
その	造物	変状	段差	無	局所的	全体的									
他の要	付随物		漏水の状況	無	漏水跡、滲出し、滴水	流水、噴水		_	-						
因	の変		周縁コンクリートの欠損等	無	局所的	全体的									
	状		合流工・分水工等附帯構造物取付部の変状 (段差、抜け上がりなど)	無		有									
(評価	の流れ	における、主	要因別評価及び施設状態評価の判定の考え方)												

注1) 「部分的」とは概ね全体の50%未満を示し、「全体的」とは全体の50%以上を示す。
注2) 「地盤変形」などにおける「局所的」とは施設の一部で当該変状が生じている状態を指し、「全体的」とはそれが構造物全体に及んでいる状態を指す。
注3) 変状別評価から主要因別評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とする。
注4) S-1の評価は、この評価表によらず評価者がは所的観点から配別に判定する。
注5) 構成要素の総合評価は、定点顕著の結果を踏まえ、施設の総合的な評価を行う際に実施するものとする。
注6) 主要因別評価から施設状態評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とすることを基本とする。なお、今後、性能低下を進行させる、より支配的な要因や、施設の機能に及ぼす影響がある場合には、これを考慮して評価する。

その他開水路(コンクリートプロック積・石積水路)の施設状態評価表

施施	2					評価年月日				
		· 名				<u>評</u> 価 者 調 査 地 点				
		査 番号				(測点等)				
施	設 0	D 状態	S-5;変状なし S-4;変状兆候 S-3;変状あり	S-2;顕著な変状あり	<u>」S-1;重大な変状あり</u>					
			評価項目		=a.	面区分		部	呼価の流れ	→
			計圖視日	計画区力				変状別	主要因	施設状
			(時人 座二)、力	S-5	S-4	S-3	S-2	評価	別評価	態評価
			健全度ランク	2-5	5-4	5-3	5-2			
		側壁	ブロックのずれ・緩み・欠損・亀裂	無	部分的	全体的				
	構 造 物		ブロックの滑動・転倒(傾倒)・はらみ	無		部分的	全体的		-	
	自体の	自 本 の 変	漏水・湧水 背面土砂の吸出し	無	部分的	全体的		-		
外部			不同沈下	無	部分的	全体的		-		
要因		水路底面	侵食·洗掘	無	部分的	全体的		-	_	
	構造物	地盤変形	背面土の空洞化	無	局所的	全体的				
	物周辺の		周辺地盤の陥没・ひび割れ	無	局所的	全体的		-		
	変状	芝 犬	抜け上がり	無	20cm未満	20cm以上~ 50cm未満	50cm以上			
		目地の変状	目地の開き	無	局所的	全体的				
その	構 造 物		段差	無	局所的	全体的				
他の	付 随 物		止水板の破断	無		有		-	-	
要因	の変状		漏水の状況	無	漏水跡、滲出し、滴水	流水、噴水				
			周縁コンクリートの欠損等	無	局所的	全体的				
(評価)	の流れ	における、主要	因別評価及び施設状態評価の判定の考え方)							

注1) 「部分的」とは概ね全体の50%未満を示し、「全体的」とは全体の50%以上を示す。
注2) 「地盤変形」などにおける「局所的」とは施設の一部で当該変状が生じている状態を指し、「全体的」とはそれが構造物全体に及んでいる状態を指す。
注3) 愛状別評価から主要因別評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とする。
注4) 写しの評価は、この評価は、この評価とない。
注5) 目地を有する場合には、目地の変形を評価する。
注5) 目地を有する場合には、目地の変形を評価する。
注5) 目地を有する場合には、目地の変形を評価する。
注5) 主要因別評価から施設状態評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とすることを基本とする。なお、今後、性能低下を進行させる、より支配的な要因や、施設の機能に及ぼす影響がある場合には、これを考慮して評価する。

その他開水路(ライニング水路)の施設状態評価表

地 区 名 施 設 名										
定 点 調 査 番 号										
施	<u>設 の 状 態</u> S-5;変状なし S-4;変状兆候 S-3;変状あり			り S-2;顕者な変状めり S-1;重大な変状めり				評価の流れ→		
			評価項目	評価区分				変状別	主要因	施設状
			健全度ランク	S-5	S-4	S-3 S-2		評価	別評価	態評価
内部要因	の変状 構造物自体	コンクリート	部材(コンクリートライニング、コンクリートパネル)の 劣化(ひび割れ、剥離、損傷など)	無	部分的	全体的		-	-	
	構造物自体の変状 周辺の 構造物	法面	法面の沈下・変形	確認されない	見通しにより やや変状あり	見通しにより 明らかに変状あり		_	1	
外			コンクリートライニングの割れ、剥がれ パネルのずれ・緩み・欠損	無	部分的	全体的				
部		水路底面	漏水・湧水	無	漏水跡、滲出し、滴水	流水、噴水				
要			侵食・洗掘 ライニングの亀裂	無	部分的	全体的				
因			底面の浮き上がり	無		局所的	全体的			
			周辺地盤の 沈下・ひび割れ・陥没	無	局所的	全体的		-		
その	構造物	サー 変状 値	目地の開き	無	局所的	全体的		-	1	
他の	状物の変		漏水の状況	無	漏水跡、滲出し、滴水	流水、噴水				
要因			合流エ・分水工等附帯構造物取付部の 変状(段差、抜け上がりなど)	無		有り				
(評価	の流れ	における、主要	[因別評価及び施設状態評価の判定の考え方)							

[|] 注1) 「部分的」とは概ね全体の50%未満を示し、「全体的」とは全体の50%以上を示す。
注2) 「地盤家形」における「局所的」とは施設の一部で当該変状が生じている状態を指し、「全体的」とはそれが構造物全体に及んでいる状態を指す。
注3) 変状別評価から主要因別評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とする。
注4) S-1の評価は、この評価表によらず評価者が技術的観点から個別に判定する。
注5) 構成要素の総合評価は、定点調査の結果を踏まえ、施設の総合的な評価を行う際に実施するものとする。
注5) 構成要素の総合評価は、定点調査の結果を踏まえ、施設の総合的な評価を行う際に実施するものとする。
注6) 主要因別評価から施設状態評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とすることを基本とする。なお、今後、性能低下を進行させる、より支配的な要因や、施設の機能に及ぼす影響がある場合には、これを考慮して評価する。

その他開水路(無ライニング水路)の施設状態評価表

地施	<u>D</u>		評価年月日 評価者							
定,		査 番 号	調 査 地 点 (測 点 等)							
施	設 σ	り 状態	S-5; 変状なし S-4; 変状兆候 S-3; 変状あ	S-2;顕著な変状あり S-1;重大な変状あり				評価の流れ→		
評価項目				評価区分				変状別	主要因	施設状
			健全度ランク	S-5	S-4	S-3	S-2	評価	別評価	態評価
外部要因	構造物自体の変状	法面	法面・護岸の 崩壊・崩落	無	部分的	全体的		_	-	
			水路外への 漏水・湧水(築堤区間)	無		漏水跡、滲出し、滴水	流水、噴水			
		水路底面	侵食・洗掘	無	部分的	全体的				
	恵 恵 辺 切 の 物	地盤変形	周辺地盤の 沈下・ひび割れ・陥没	無	局所的	全体的		ı		
その他の要因		附帯構造物 の取付境界 部の変状	漏水の状況	無	漏水跡、滲出し、滴水	流水、噴水		ı	-	
	変 状 随 物	4,112,11	合流工・分水工等附帯構造物取付部の 変状(段差、抜け上がりなど)	無		有り				
(評価	iの流れ	における、主要	長因別評価及び施設状態評価の判定の考え方)							
			200. T#4-1 [AH4: UIA Hanasini I 4-1							

注1) 「部分的」とは概ね全体の50%未満を示し、「全体的」とは全体の50%以上を示す。
注2) 「地盤変形」における「局所的」とは施設の一部で当該変状が生じている状態を指し、「全体的」とはそれが構造物全体に及んでいる状態を指す。
注3) 変状別評価から主要因別評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とする。
注4) S-1の評価は、この評価表によらず評価者が技術的製点から個別に判定する。
注5) 構成要素の総合評価は、定点調査の結果を踏まえ、施設の総合的な評価を行う際に実施するものとする。
注5) 構成要素の総合評価は、定点調査の結果を踏まえ、施設の総合的な評価を行う際に実施するものとする。
注6) 主要因別評価から施設状態評価を行う場合は、最も健全度が低い評価を代表値とすることを基本とする。なお、今後、性能低下を進行させる、より支配的な要因や、施設の機能に及ぼす影響がある場合には、これを考慮して評価する。